

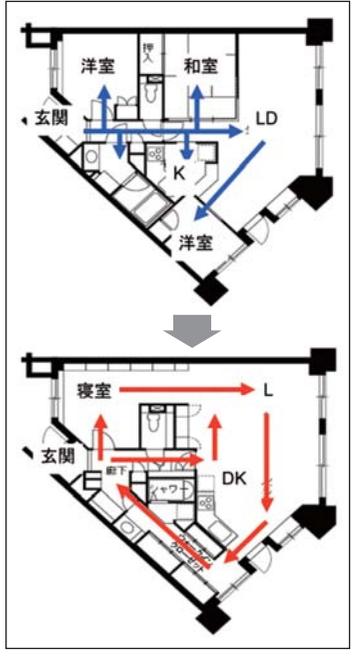
\*1人暮らしの間取り

「50㎡あれば一人暮らしには十分だと思っただけど、ちっとも広く感じない」と知人が言う。聞けば、ファミリータイプの2DKの1部屋はほとんど使っていないとのこと。

ライフスタイルの多様化に伴い、男女を問わず一人暮らしが増えているが、新築マンションは相変わらずの部屋数志向。めったに使わない個室が、広がりや採光を妨げ、動線を煩雑にしている。だったら自分の生活にフィットしたワンルームにしてはどうだろうか。

凶は、多忙な一人暮らしの施主がゆったりとくつ

Let's リフォーム  
西田恭子



ろげる空間がほしいと、3LDKを全面改装したケース。一日の行動パターンを分析し、広々としたくつろぎのスペースと機能的な身支度スペースの2つのゾーンに分けたワンルームを提案した。

朝は寝室↓シャワー↓ウォークインクローゼット(着替え)↓ダイニングキッチン(食事)↓玄関と動線が流れ、夜は逆の玄関↓



シャワーという流れで寝室へ。生活動線もスムーズな回避型だ。無駄のない動線が、身支度の時間を短縮し、ゆとりの時間が生まれたと喜ばれている。浴槽を設けない、寝室を仕切らないなど大胆な省略ができるのも一人暮らしならではの特権といえるだろう。

ワンルームのメリットは広がりや明るさだけではなく、廊下幅や出入り口の幅上、動線に即した収納を上手

部屋数を整理、行動パターンを吟味したワンルームに

ただし、壁を取り払っただけでは、雑然として落ち着かない空間にもなりかねない。腰高の収納でベッド(三井のリフォーム住生活研究所所長、1級建築